

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は日々の方針と合わせて地域密着型サービスの役割を話しており、職員も理解している。地域の中で安定した生活が送られるよう独自の理念を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のカンファレンスやミーティング等で理念を共有しており、利用者は重度の認知症や精神状態不安定な方が多いが、なるべくサービス提供の場に反映させるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設内玄関前に理念を掲示、パンフレット等にも明示し、施設利用時には家族等に説明している。また、ホーム便り等の発行、運営推進会議等で理解してもらえよう取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	関連事業所(デイサービス)での利用者の方々との交流を図ったり、また、近所の方々との挨拶等コミュニケーションに努めている。随時、ボランティア、家族の見学を受け入れ、認知症に関する相談等にも対応している。事業所の地域活動参加は重度の認知症や精神状態不安定な方が多いため今のところ見合わせている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には理念等ケアの方針、取り組み等十分に説明を行い、その後疑問等について分かりやすく説明し同意を得ている。退居の際は本人の心身状況を考慮した上で、家族等に不安を抱かせないよう退居先の情報提供等十分な話し合いを行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの相談や苦情に関する常設の窓口があり利用方法等説明しており、また、利用者の言動からも不満や意見等を察するよう努めている。苦情処理等円滑迅速に行う為、処理体制、手順、方針等決めサービス改善に努めている。第三者へ伝える為の機会は運営推進会議で行っている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話にて日ごろの暮らしぶりや写真を提供し様子など知らせており、ホーム内にも行事や散歩時の写真、作品等掲示している。金銭管理の状況についても領収証添付のうえ、定期的に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ時間を頂いたりホーム便りにて意見要望など遠慮なく話していただけるよう配慮している。2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、意見等を求めている。家族などの意見苦情等は処理体制、手順、方針などに従いサービス改善につなげている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	担当医と職員との話し合いにて入居者を受け入れている。運営方法については職員の意見等聞いて反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	7名の職員を確保しており入居者の生活を重視し、状況変化にも対応できるようにしている。職員の急な休み等には代替りの職員を確保できる体制となっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営、管理者は職員交代による利用者への影響を十分理解しており、馴染みの職員によるケアサービスが受けられるよう配慮している。やむをえない場合、新職員には詳細を伝達し、利用者へのダメージを最小限に抑えられるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修予定表にて個々の経験に応じ必要な研修を受講し、報告書を提出している。研修内容を日々のケアに活かせるよう資料や報告等で職員が周知できるようにしている。法人には外部に業務についてのスーパーバイザーを確保している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との会議等で日々のサービスに向けて話し合い、それを通じて職員間の交流、連携が確保されている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に管理者が職員の相談にのっており、状況によっては法人の上司と面談を行っており、より良い環境作りに努めている。。また、法人全体の報告会等あり現在困難な状況等話し合いを行っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者による現場状況の報告を受けており常に状況を把握している。法人の就業規則が作成されており健康診断も実施。健診後の医師による指導体制も整っている。職員の保有資格を活かした職員配置に配慮されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時は来所頂くか訪問にて直接お話を聞きながら、合わせて身体状況や本人、家族の思いやニーズ等把握に努めており、相互間の信頼関係を築けるよう努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ニーズに対し何が一番必要なのか見極め、できることは早めの対応にて行っている。必要に応じて関連施設や行政との連絡をとり、他のサービス機関利用の支援に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に事前に施設内見学していただき、十分な話し合いを行い、安心してサービス利用していただけるように努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活リズムを大切にしながら一緒に生活の中で喜怒哀楽を共にし、利用者が今ある力を存分発揮することで自信につながり、職員にも学ぶ機会となっておりお互いに支えあいながら生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況等、家族と情報交換を行いながら、家族の思いを把握し、共に利用者を支えていくように努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時やホーム便りにて利用者の様子を伝えたり、面会が疎遠になっている場合は電話連絡にて面会を促したり、可能な方には直接電話にてお話していただく等支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が知人等との交流を継続できるように電話等必要に応じて連絡を取れるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者の人間関係を把握している。また、重度の認知症等により孤立することがないように見守りながら、利用者の個々の能力、個性を活かす声かけ等により、良い人間関係を築き維持できるように努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、必要な利用者家族には面会する等、関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が率直に何でも発言できるような雰囲気作りをしながら、日々の関わりの中から思いや意向等の把握に努め、必要に応じて家族等からも情報収集を行い、本人本位に検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やライフスタイル、サービス利用の状況等の把握に努め、必要に応じプライバシーに配慮しながら家族やケアマネージャー等にも情報収集の協力を頂いている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムや有する能力、心身状態等把握しており、変化時には朝夕の申し送り時に内容を詳しく伝達、ケアサービスに支障をきたさないよう努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、可能な限り利用者や家族等の意見要望を聞くようにしており、職員間で話し合いながら、個々に、より良く暮らし続けられるように利用者本位に具体的に作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期見直しを行うほか、状態変化時は随時見直しを行っている。見直しの際は再アセスメントを行い、利用者家族等の意見要望等聞き、現状に合わせた計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や身体状況等具体的に記入している。また、計画内容は休憩室に掲示、個別記録内にも綴っており、目標に沿ったケア実践状況等も記入、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、毎日看護師の訪問にて健康状態把握、心身状態変化時には速やかに検査治療等対処している。歯科受診等必要時は職員が受診の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で民生委員や町会長等との情報交換が行われており、必要に応じて協力は得られると思われるが、現在は重度の認知症の方もおられる為協力は求めている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所等と密に情報交換し、必要に応じて他のサービス利用につなげられるようにしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて権利擁護等家族に説明等行い、関係機関との連携をとり協働で行っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があれば受診希望の病院へ受診することは可能としている。また、通院前後には家族へ連絡をとり、報告している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内に医師がおり、週1回の往診があり対応方法や指示・助言を頂き、すみやかに治療対処している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日看護師によるバイタルチェックを行っており、対応方法や指示・助言を頂き、すみやかに治療対処している。急変時等24時間対応できる連絡体制をとっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の面会や、病院関係者との情報交換などを行っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を明確にしており、重度化した場合等現在の状況を家族や医師にも報告・相談しながらケアをしており、家族の意向も含めて全員で方針を共有して行っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の話し合いを含め、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医・看護師・家族と常に連携を取りながら、安心して生活できるよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>職員は利用者の環境の変化によるダメージを理解しており、やむをえず住み替えとなった場合には、プライバシーを配慮したうえで利用者の状況やケア方法等情報交換を行い、ダメージが最小限になるように努めている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>認知症が進み支離滅裂等の言動出現されても、否定せず幾度と声掛け・見守りには十分注意し対応している。1日2回の申し送り時など、その都度職員間で対応について話し合いを行っている。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>コミュニケーションの時間を多く取り入れ、会話や接する事を大事にしている。希望をできる限り実現できるよう、職員が選択できるようなプランを共に考えたりしている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間・入浴など時間のゆとりを取り、自分のペースを保ちながら行えるようにしている。利用者から話し掛けられた場合、何よりも最優先し接するよう努力している。</p>	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の好みで自由に選択できる。また日常的に買い物のお機会を設けており、ショッピングなど楽しんでいる。衣類や整容の乱れには職員が常に配慮し、プライドを傷付けないようカバーしている。月1回程度理美容院の利用を支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の元で栄養管理に基づき献立表を作成している。また利用者の好みに配慮して食材を選び調理に活かしている。利用者の状況や意思等に応じて、準備や後片付けを一緒に行っている。利用者との会話を楽しみながら職員も一緒に食事を摂り、声掛け・見守りなどの工夫をしている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入所時や普段の会話の中から好みの物を聞き、利用者の安全確保の為職員が管理し、他利用者に迷惑がかからないよう、日常的に楽しめるよう支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	2時間おきに声掛け及びトイレ誘導し、トイレでの排泄を促すとともに、チェック表へ記入し、排泄パターンの把握に努めている。下着・おむつ・リハビリパンツの種類も多く準備し、必要性によって使い分けている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を入浴日としている。入浴日以外でも希望があれば入浴可能としている。個人のADLに応じて入浴方法・誘導方法を検討している。不安や羞恥心の強い方にはできる限り声掛けし、促している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	施設外での日光浴・体操・散歩等時間を設け、体力作りに心掛けている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみなど個人に合わせた場面を作り、行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の現金は所持せず、利用者が自己管理できる金額を所持して頂くようにしている。(必ず家族・本人の承認を頂き決定している)		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や施設外散歩をできる限り行い、気分転換を図っている。利用者の身体状況やその日の状態に合わせ、距離や車椅子の利用等配慮し行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じバスでの外出を実施しており、実現可能であれば希望の場所へ行けるよう支援している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への連絡は居室にてコードレス電話を使用し、プライバシーの配慮をしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	電話連絡にて情報を共有し、気軽に訪問できるよう努めている。訪問時には居室にてゆっくり会話していただけるようにしている。家族等からの宿泊の希望に応じる体制は整えられていない。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動が抑制されたり、拘束されたりすることのないよう、見守り・声掛けを重視している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	申し送り等で状況変化の連絡を密にしており、起こり得るリスクを把握し、対応策も話し合っている。状況変化時には家族にも連絡、リスク対応策についても報告している。法人全体のリスクマネジメント委員会もあり、話し合いの場を設けている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	カルテに病歴・アレルギーの有無・留意事項を記録しており、プライバシーに配慮しつつ行っている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとの服薬管理を行い、一括手渡しではなく、服用ごとに配布し与薬している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝・夕の申し送り時、必ず排泄状況について連絡し、水分補給や内容について検討している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員が見守り・一部介助し支援している。夜間ポリデント等使用し、日常的に支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の手で栄養管理にもとづく献立表を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い・うがい・布団等の天日干しを必要に応じて対応マニュアルをもとに適切に行われている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食毎に布巾・まな板等殺菌を行い、衛生管理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターを設置し、利用者が楽しめるよう配慮している。また、近隣の住民が尋ねやすいよう利用者の外出時の際あいさつ・会話等を行い、家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設中心部に畳間をもうけていることもあり、また他空間も利用者の方々が安心して、心安らぐ安全な空間となっている。テレビの音量等は一定の大きさにし、他利用者とトラブルにならないよう配慮している。また照明はあまりまぶしくない照明を利用する。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内数ヶ所に椅子を設置し、また広い畳間もあり、好きな所で利用者が団欒を楽しめるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	各個室になっている為、使い慣れた調度品・装 飾品等は自由に持ち込むことができ、安心して過 ごす場所となっている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	早朝1時間程換気(居室等)し、常に23度前 後とし、居室・ホールに温度計を設置している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール全体に手すり、またバリアフリーにて段 差が無く設備されている。利用者の活動性を維持 するために、歩行器・車椅子等用意している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレや各部屋に名前のプレートを置いてい る。それでも間違いや分からない場合は目印等を 置いている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	プランターにて花や野菜を植えており、毎日の 水やりが日常となっている。また、月1回施設外 の草取りを実施している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の希望やペースを尊重し、入居者がゆったり安心して生活できるようなアットホームな雰囲気心がけケアしている。医療と連携をとり、栄養士の協力も得て、ターミナルケアにも対応している。